

保存会会員らによる勇壮な舞



訪れた人々の「願い」のために

◎節安花とび踊り

町の無形民俗文化財に指定されている「節安花とび踊り」の奉納が2月24日、節安薬師堂Ⅱ父野川上Ⅱで行われました。

「節安花とび踊り」とは、安産、家内安全や地区の安泰を祈願して奉納されるもので、伝説によると戦国の頃より受け継がれてきたと言われています。

はちまき、たすき、わらじばかりの衣装に身を包んだ保存会会員らは、真剣を振りかざし、この日訪れた人たちのため、強く願いを込めて勇壮な舞を披露していました。

ステージ上で鬼北の魅力をPR



ふるさとの魅力を「30秒」で表現

◎ふるさとCM大賞えひめ2013

2月24日、松山市コミュニティセンターで「ふるさとCM大賞えひめ2013公開審査会」が行われ、県内全市町が自慢の力作とともに参加しました。

本町は、「THE・鬼ほく」と題し、町民の人たちのたくさん笑顔で、温かな人情味溢れる鬼北の魅力を表現したCMを製作。今年は惜しくも受賞を逃しましたが、多くの人が集まる場で、十分に鬼北の魅力をPRできたようでした。

この公開審査会は愛媛朝日テレビ主催。

「劇団すぎのこ」の劇団員らによる熱演



迫力の演技、観客らを魅了

◎鬼北の里人形劇

全国各地の子どもたちに人形劇を行っていている東京都の「劇団すぎのこ」による「鬼北の里人形劇」が3月3日、近永公民館講堂で行われました。

地球の自然破壊と、男の子と1羽の鳥の友情をテーマとした「とべーどーどー」の演目で行われたこの人形劇。

町内の親子連れなど78人が観賞に訪れ、劇団員らの熱のこもった演技と、まるで生きているかのように舞台を動き回る人形に、子どもたちだけでなく大人までもがその世界観に引き込まれていました。

笑顔で参加者に語りかける村田さん



長命＝長寿(長生きを喜ぶ)の時代へ

◎鬼北の医療と介護の未来を考える講演会

3月2日、近永公民館講堂において、「第3回鬼北の医療と介護の未来を考える講演会」が開催されました。

北宇和病院院長の岡部健一氏による基調提言では、シルバー川柳を織り交ぜながらの軽快なトークに、会場中が和やかな空気に包まれました。

その後、福祉ジャーナリストの村田幸子氏を迎えて行われた特別講演。「これからの人生を最高に輝いて生きるために」と題し、「人生の可能性は無限大。高齢者が中心となって地域を盛り上げてほしい」と生きがいを持って生きることの大切さを語っていました。